



コロナ禍のなか、それぞれのロータリークラブは、創意と工夫を凝らして必死にクラブ活性化の糸口を探っておられる状況であると思います。12月に入ると、クリスマス例会について、そもそも開催するのか、家族・子供たちも参加させて良いのか、どのようなやり方で開催すれば良いのか、など正解のない世界で議論が繰り返されたのではないのでしょうか。とかく、このような、クラブ内のことに関心が限定されてしまいがちな時期ですが、私の所属する第2770地区には、引き渡しの式典も含め、リモートによるやり取りだけで、現地への訪問なしに、集中治療室に設置する医療機器を地区補助金を使ってモンゴルに寄贈したクラブがあります。さいたま大空ロータリークラブという米山・財団学友が中心メンバーであるクラブです。このクラブが国際性豊かなクラブであったからこそ実現できたという面もあるのかも知れませんが、大に見習うべきことであると思います。海外の姉妹クラブとの間で、リモートを使って近況報告をすること、例会の様子を伝え合うことなども意義のあることだと思います。

会員増強も、人との接触の機会が減っている現在、思うに任せない状況が続いていることと思います。こんなときこそ、SNSを活用して、クラブの情報などを地域に積極的に流していくことは重要だと思います。地区バイク同好会のツーリングの様子やクリスマスプレゼントを配るサンタの姿をYouTubeで流してみたいと思っています。皆様とともに、いろいろなアイデアを出し合って、ロータリーの輝きが失われないように活動していきましょう。多様な職種の間が集まり、様々なノウハウを持つ我々ロータリアンには、今こそ、期待される役割があるように思います。

第1地域 ロータリーコーディネーター補佐 浅水 尚伸 (越谷南RC)

新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見えないまま、年末年始にかけ増加傾向の様子を呈し、クラブの例会もなかなか思うように運営できない状況にあります。

しかし、今まで経験したことのないコロナ禍の中でも、我がロータリアンは多くの財団の資金を活用し、医療従事者への支援、又医療機器などを提供し活発な活動を行っていることに敬意を表すると共に、その活動を広く人々に知って頂きたいと考える次第であります。

さて国際ロータリーにおいては、2016年の規定審議会によってクラブ委員会に「公共イメージ委員会」等の設置推奨がクラブ定款に記載されることとなりました。実際、ロータリーは一般社会において認知度がまだまだ低く、どの様な活動をすれば認知度を上げることができるのかを、かなり絞り込んで地区及び各クラブで考えていかなければなりません。今までの所、公共イメージとしてソーシャルメディアへの投稿、ラジオ、テレビ等への働きかけを以前より活発に進めております。具体的には、ポリオ根絶に対しNHKへの積極的な対応、ロータリアン個々においても、ボランティア活動を逐一フェイスブック等にアップしたりしております。私としては、玉石混交ではありますがユーチューブがこれからのアイテムとして説得力があると考えています。

また、「公共イメージ」を高める方法として一番取り組みやすいのは、世界ポリオデーに因んだイベントや活動を地区単位、クラブ単位で行なっては如何でしょうか。ロータリアン、ローターアクト、インターアクト、青少年交換学生、米山奨学生が参加することにより、地域社会の方々に対してもロータリーの認知度も上がります。RIに登録された世界ポリオデーのイベント数では、ブラジル575件、アメリカ348件、ナイジェリア187件、メキシコ164件、ベネズエラ157件、日本は14件となっております。まだまだ日本国内におけるポリオの意識がこのように低い現実を知り、次年度はぜひ世界ポリオデーを活用したイベントの開催を進めて頂きたいと思います。

今までは他のボランティア組織に比べ、アピールが控えめでも地道に成果を上げれば地域社会での参加者が増えてきておりましたが、現在は世の中の変化に適応し積極的に発信する事が急務と痛感しております。

ただ、現在のコロナ感染拡大の最中において行動の制限など閉塞感が拭えませんが、こういう時こそ各クラブにおいて真剣に考えて頂きたい視点であります。時には、イメージ戦略、マーケット戦略の専門家などのノウハウを見聞きしながら、コロナが落ち着いた時にすぐ行動できるように具体的なアイデアを出し合えれば、さらなる進化が待っていることと確信しております。

第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 保延 輝文 (石岡RC)